



研究者 塚田 巧（御代田町立御代田南小学校）

共同研究者 八木雄一郎（信州大学 准教授）

テーマ

子どもが探究的に学ぶ授業をめざして

国語科「読むこと」をとおして

7月「作家で広げるわたしたちの読書」の単元で研究授業を行いました。主な内容は、まず教科書に載っている作家の作品を読み比べてキャッチコピーをつくり、その後は子どもたちが自ら好きな作家を見つけ、その魅力をキャッチコピーにまとめて紹介するという流れでした。共同研究者の八木先生から「子どもたちの読みは登場人物と同化して読む〈参加者スタンス〉から、物語を俯瞰して分析的に読む〈観察者スタンス〉が段階的にあり、〈参加者スタンス〉から〈観察者スタンス〉になるにつれて読みのレベルは高まっていく」という学術論文を教えてくださいました。一方で「教師が子どもたちの読みのスタンスを規定するのではなく、様々な読みを認める構えが大切」ということも教えていただきました。

授業で子どもたちは自らのオススメの作家の作品を読み比べながら紹介カードを作成していきました。子どもたちが見通しをもち、必要に応じ友達と協働しながら活動を進め、授業終了のチャイムが鳴った後も活動続ける姿は「教師からやらされている学びから子どもが自ら学んでいく」といったまさしく『子どもが探究的に学ぶ姿』であったと言えると思いました。

一方で、協議会では教科のねらいの甘さという点をご指摘いただきました。本時は自分のオススメの作家の魅力を紹介するキャッチコピーづくりを行いました。その際、キャッチコピーの定義が曖昧だったため、キャッチコピーとは言えないものも多くできあがってしまった。私は子どもたちの探究的な学びや様々な読みを認めていこうとするあまり「教科のねらい」という点を十分に意識できずになってしまいました。

そこで、以後の「読むこと」の単元では、まず教科書に載っている作品を読み、その後、自ら作品を選択して読んでいくという学習モデルは継続しつつ、教科のねらいを授業者が明確にも子どもたちと十分に共有しておくことを大切にしていきたいと思います。



共同研究者 八木先生から

今、塚田先生は、教員人生の中で国語の授業づくりに最も苦しんでいる時期であり、同時にそれを最も楽しんでいる時期でもあるように見えます。「読むこと」の学習とは一体何なのか、ともに模索しながら研究授業に向かっていきます。

～日程～

- ① 受付 13:00～13:15
- ② 全体会 13:20～13:35
- ③ 公開授業 13:45～14:30
- ④ 研究協議会 14:45～15:45
- ⑤ 講演
『「読むこと」の学習の促進』
15:50～16:30
- ⑥ 全体会 16:30～16:40